

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

株式会社医療福祉経営研究所

②事業者情報

名称：	さいたま市年輪荘	種別：	養護老人ホーム
代表者氏名：	施設長 小泉 俊一	定員(利用人数)：	50 名
所在地：	〒336-0932 埼玉県さいたま市緑区中尾1404番地		Tel 048-873-1763

③評価実施期間

平成27年6月1日（契約日）～平成27年12月25日（評価結果確定日）

④総評

◇特に評価の高い点

「ボランティアの協力を得ながら、多様な活動や行事を利用者に提供しています」

講師による、絵画教室、陶芸教室、レク体操、コーラスなど各種教室の他、ボランティアの先生による各種クラブ活動、各フロアでのレクリエーション、施設全体の行事など、多様な日中活動と多岐にわたる行事を計画・実行し、利用者が生きがいのある生活を送れるよう支援しています。また、強制されるのではなく、自身で日中の過ごし方を考えるということから、利用者の自立を促すことも後押ししていることがうかがえます。

「利用者も地域の一員として地域交流が行われています」

基本理念の中で掲げている、「地域に開かれた施設として地域福祉の向上に寄与します」を体現する取り組みとして、地域の民生児童委員や自治会、その他地域の方々の協力のもと、様々な交流の機会を設けています。地域開放事業として実施している「グリーンアドベンチャー」は緑豊かな庭を活用して、樹木あてゲームなど地域住民に来園いただき、交流しています。今年度、園芸クラブで育てて収穫した野菜と、地域住民である農家の方が提供して下さる野菜と一緒に「販売会」を実施しました。さらに「地域情報」として園内掲示版に地域内の情報を掲示し、利用者に情報提供する機会を増やしています。その他、隣接する保育園との交流など、積極的に地域に働きかけて、利用者も地域の一員として関われる機会を持つことで、地域の中に溶け込み日常生活が送れるよう取り組んでいます。

「目標管理制度を確立し、本格運用を始めました」

目標管理制度を確立し、昨年度より本格運用を始めました。職員は「目標管理サービス計画書」に当年度の目標・課題を最大三つまで記載し、いつまでにどうするかに対応・方針も同時に記入します。内部・外部研修の受講計画も記載し、半年毎に総括を行って年度末に総合的自己評価が行われ、目標に対しては三段階評価を、研修については五段階での達成度評価を実施しています。外部研修については、ほぼ各自の希望通りの研修を受講することができています。

「福祉サービス第三者評価のスケールを活用し、毎年、自己評価を実施しています」

3年毎の評価機関による評価の受審に加え、同様の評価基準を用いて毎年自己評価を実施し、サービス内容の見直しと向上を図っています。職員の自己評価を基に、現状の振り返りと課題点を分析し、改善につなげています。評価機関からの客観的な視点と、施設職員の現状把握を踏まえ、施設として健全な運営、サービス提供を促進していく前向きな姿勢が表れています。

◇特にコメントを要する点

「機能訓練等の実施状況について、取り組み内容に対する記録の充実が期待されます」

ケアプラン内容の実施状況についての評価は、毎月モニタリングにて評価しています。モニタリングを行う際に活用する、ケアプランの実施状況および機能訓練の実施状況は実施日の記録が「○×」表記のみとなっており、その時の利用者がどのような状況で取り組んだ結果がこの評価となっているのか、把握しにくい状態となっています。利用者の取り組み状況を記載しておくことで、機能訓練の内容やケアプランの見直し時の情報として有効活用でき、現状に即した課題抽出に役立つことが推察されます。今後の検討が期待されます。

「嗜好調査の内容について検討することが期待されます」

利用者の嗜好調査は、アンケートで実施しているほか、栄養士が昼食時等ラウンドして直接意見を聞きながら、献立に反映するよう取り組んでいます。献立の作成や残菜量から考えられるメニューの工夫を行うためには、食材等の好みを把握する内容だけではなく、利用者の好むメニュー、不人気なメニューに関する意見を把握する嗜好調査を行うことも一案かと推察されます。利用者の楽しみでもあり、また、健康維持に向けて「食」についての意識を高めていただく視点からも、調査内容の検討は期待されます。

「ヒヤリハットや利用者の苦情や要望は、分析、検証しやすいよう工夫することが期待されます」

施設内で発生した、「事故」や「ヒヤリハット」については、毎月行う「事故・ヒヤリ検討会議」にて評価、見直しが行われていますが、ヒヤリハットの報告数は必ずしも十分とは言えない状況も見受けられます。利用者個別のケース記録内に、ヒヤリハットと思われる事象や利用者からの苦情・要望が記録されており、これらについては、内容、対応方法等の検証・分析や職員への周知が不十分となる可能性も推察されます。それぞれケース記録内での管理ではなく、リスクやニーズに関する情報共有がしやすい状態にすることで、より、分析、検証もしやすくなることが推察されます。今後の工夫が期待されます。

「職員間のより一層の意思の疎通が望まれます」

職員の自己評価結果において、管理層のリーダーシップや人事管理の面で十分な満足度が得られていない状況が見受けられました。寄せられたコメントでも組織内・職員間のコミュニケーションの不足、モチベーションの低下等が挙げられています。毎月開催される全体職員会議で園長から様々な通達・話が職員に対してなされていますが、それ以外の機会も活用して、組織内・職員間のより一層の意思の疎通を図ることが望まれます。

⑤第三者評価結果に対する事業者のコメント

さいたま市年輪荘は、第三者評価に加えて目標管理サービス・研修制度を立ち上げて、施設サービスの見直し及び様々な社会変化の対応に努めています。前向きな職員の姿勢により、処遇サービスをはじめ施設経営においては成果を発揮できていることを確認できました。ご指摘いただきました内容については、改善に向けて話し合っサービス向上に活かしていきたいと思ひます。これからも、利用者の立場に立った運営を基本として、職員が働き続けられるような環境作りにも配慮し、コミュニケーションに努め、また、地域との連携を大切に施設運営を目指していきます。